

大牟田RC寄稿

日本・台湾の学校つなぐ

ICT活用 海洋教育交流を推進

<上>

大牟田ロータリークラブ(RC)は2024年6月に創立70周年を迎え

「社会の担い手・まちづくりの為の海洋教育支援」と「海洋教育を軸としたICT(インターネッ

ト・コミュニケーション・ツール)による台湾との実践交流会」をテーマに記念事業を行った。

大牟田市は16年以来、天領、みなと、天の原の3小学校をモデル校に指定し、世界遺産の一つである三池港や有明海を通じて海洋教育のカリキュラムを組んだ。その成果

は、ガザミ(ワタリガニ)の飼育と生態観察を各校で行った後、福岡有明海漁連の協力を受けて、標識マーキングされた約700匹を有明海に放流する体験を実施した。

また、例年各校で実施されている諏訪川の生物を守るカヌー体験、海洋ごみの実態と環境学習を目的とした三池海岸清掃活動に関わる児童たちの送迎を支援し、三池港の歴史や海の資源を学ぶための三池港内の見学クルーズもサポートした。

さらに今回の目玉として、台湾で海洋教育を推

進している鼻頭、八斗の2国民小学校と大牟田の3小学校をインターネットつなぎ、ICTによる海洋教育実践交流会を開催した。児童双方による学校紹介や学習発表をし、活発な質問が交わされ、国際交流が盛り上がった。2回目のICT交流

会では、海洋教育推進校の佐賀県玄海町玄海みらい学園も加わり、地域と国境を超えた各校の特色のある海洋教育の学びが深まった。次の寄稿にてこの国際交流の今後の展開に関して報告する。

(大牟田RC会長、富永宗嗣)

国境超え学び深まる



旧三池海水浴場でのガザミの放流